



地区米山奨学委員会  
委員長

**岡田 義昭**

(大阪淀川RC)



半世紀前に始まった米山記念奨学会活動は、いまや世界106カ国、13,000人以上の留学生を支援してきた大事業になりました。本年度、当地区では11大学と1高等専門学校 of 留学生41名を世話して頂いています。

この地区割当人数は地区の寄付額によってほぼ決まります。当地区では各クラブのご尽力により最近3年間38~39名(高専校生は2名で1名分および現地採用奨学生1名追加)が割当られ、全国第4~5位の人数です。

毎年1月に、新規奨学生をお世話頂けるかどうかのアンケート調査をします。この受入れ希望RC数が本年度は43、前年度から継続してお世話しているRC数が11でした。この数は年々増加していますので、米山奨学生への関心が高まってきた証拠であり、大変喜ばしいことだと思っています。

また最近の傾向として北東アジアの奨学生を拒否するクラブが減少し、女性留学生を希望するクラブが増えました。地区委員会は、RCのご希望を第一に考えて世話クラブを決定しています。前年度多額の寄付をし、奨学生引受けの希望を提出していながら、

本年度お世話できなかった14RCに対しましては、来年度優先的に配慮させて頂く予定ですので、宜しくお願いします。

地区委員会は3年前から学友会の支援を得て、奨学期間を終了した学友を追跡調査しています。「あんなに世話したのに、何にも言ってこない」これは施しの思想です。学友たちがその後どんな人生を送っているのか、それをこちらからアプローチして確かめるのはカウンセラーの役割ではないでしょうか？委員会としては皆様方の熱意に頼るしかありませんので、新しく連絡をとれる学友が判明しましたら、G事務所にご連絡下さるようお願いします。

お世話した成果が、20年後、30年後に確認できるという奉仕活動、それが正に米山奨学金制度だと思っています。

どうか今後ともご寄付と長期間学友たちとの接触を宜しくお願い申し上げます。